

駅や公共施設など街中で AED (Automated External Defibrillator;自動体外式除細動器) を見かける機会も増えてきました。AED は全国に 60 万台以上設置されており、世界で一番多いのではないかとされています。

しかし、AED の使用率は約 4.7%に過ぎず、心肺停止からの平均生存率は 10%前後、年間 78000 人以上の方が心臓発作で亡くなっています。因みに欧米では平均生存率が 60-70%であり、我が国と大きな差があります。

2022 年のある調査によれば、AED の使い方を知っている人は約 48%でした。しかし、実際に AED を使用出来ると回答した人は 5.8%、どちらかといえば出来ると思うと合わせても 30.6%に留まっています。

心停止で倒れると救命率が 1 分ごとに 10%低下し、10 分を経過すると低酸素脳症のため救命はほぼ難しいと言われています。昨年の消防庁のデータでは 119 番通報から救急車が到着するまで平均 10.3 分かかり、処置が始まるのはさらに時間を要します。

救急救命は時間との闘いです。119 番通報して救急隊を待っているだけでは約 7%の人しか救えません。しかし、胸骨圧迫 (心臓マッサージ) をすることで 2 倍近く、さらに AED を使って電気ショックを行うことで約半数の命が助かります。

119 番通報をすれば司令員が胸骨圧迫や AED の使い方を教えてくれます。AED はパッドを付ければ電気ショックの必要性を自動的に判断してくれる安全な機器です。倒れた人を見た際には、119 番通報をするとともに躊躇^{ためら}わずに胸骨圧迫と AED を使用しましょう。

なお、救急処置に対して刑事・民事ともに結果への責任が免責されていますので、結果に対して不安を持つことは全くありません。

AED などの救命講習は各地の消防署で行っているほか、オンラインでも受講することが出来ます。日ごろから講習に参加して訓練を受けることや学習を行っておくことが、いざという時にとても役に立ちます。

また、先に述べた調査で AED が設置してある場所を知っている人は 45.2%でした。AED を出来るだけ早く持ってきて処置を始められるようにするために、日ごろから身の回りにある AED の設置場所を確認しておくことも大切です。

9 月 9 日は“救急の日”、そして救急の日を含む 1 週間 (日曜日から土曜日) が “救急医療週間”です。この機会に AED を身近なものにするようにしましょう。